

告159-7
(告159-3の反訳)

野村：ちょっとお尋ねしますけどね、なんで新聞のね。あなたインタビューでね、北海道新聞でね。僕が見ればね、5年をめぐりにね、再開させるということ強調したんですか？ 新聞の記者が来てる時に。「ようやく決まった」と「ほっとしてる」と。「5年をめぐりにリフトは再開される予定です」ということをね、新聞記者に伝えたんですか。

山内：いつですか。

野村：新聞に2回載ってるよ。山内さん曰く、という言葉でね。何でそんなこと言ったんですか？

山内：そういう計画書だったから・・・

野村：あなた、計画書を全く反映してないみたいなね、やり取りなってますよ。僕とのね。僕がね、審査請求してる仮定で・・・

山内：計画書を出したときは、そういう風に俺、希望を持って、やってもらえるもんだ、というふうに思って、期待をして、「そういうふうを書いて」って言ったんだと思いますよ。

野村：僕はね、この審査請求の中でね、あれこれ聞いてる中で、あなた方から出た回答はね、そもそもリフトは、前提としてないし、それに期待もしてないと、これ言葉の中でもありますよ。

山内：(不明)

野村：言葉の中でね、僕はね、なんだ、町長もいる場でね、打ち合わせの中でね、予めペーパーでね、質問内容を渡してね。リフトをね、再開しなかった場合ね、あなた方はどうするんですか？と、いう質問したときにね、そもそも、それを期待してないんだと、やってくれればいいけどもね、できなければできないで、それでいいんだ、みたいなことを言ってるよ。

山内：やれなかったら、しょうがないとは言ったかもしれませんが、それも(不明) かったとは言っていないと思いますけどね。

野村：いや、そもそもね、リフトを前提とはしてないってことを、あなた明確に言ってますよ。

野村：そりゃそうですね・・・

野村：だとしたら、なぜ、北海道新聞にはね、あたかも見る人がね、「5年後にリフト付くんだ」と期待させるようなね、言葉を使うんでしょうか？

山内：その時は、そういうふうに、こちらも期待してたから、そういう素直な気持ちを（不明）。

野村：2016、2017年にね、2017年に聞いてるときにね、ね、そんときにね、あなたから聞いたのがね、そもそもリフトなんか、全然当てにしてない。

山内：そういう表現をしてないと思うんですけども、それは言った言わないですから。テープに残しとてくれれば・・・

野村：残ってますよ。誰が見てもね、提案してる内容をね。で、じゃあ、もう一つお尋ねしますけどね。

山内：ちょっとね、じゃあ、その前にじゃあ、一番最初に喋って、あのう、ええと、ホームページページの、ホームページのWEB管理について、全く、全部不開示にして、わざわざ野村さんに、9月2日に来てもらって、まあそのときに、自分の、私のね、認識不足ということで、開示するって（不明）、申し訳なかったりする部分、（不明）そこはしっかり確認させてもらって、回答させてもらうということにしたんですけど、その時に、申し訳なかったということ（不明）申し訳なかったと言ってませんので、ま、それについては率直に、こうやって場所を1回多く（不明）してるわけですから。

野村：1回どころじゃないですよ。1回どころじゃないよ。工藤さんと3時間も電話してるよ。ね、あと誰だ。

山内：わかりました。じゃそれも・・・

野村：半端じゃないよ、この消耗の度合いはね。半端じゃないよ。後でね、どっかで公開するけどね。